

「いざという時に難なく使えるように、普段から mcAccess ℓ をメインの通話に使っています」と語る報道局報道部主任、カメラデスクの内山さん。



中部日本放送株式会社 (CBC) は1950年に会社を設立。翌1951年、民間第1号のラジオ放送を開始。1956年にはTV放送をスタートしました。2006年にはTV

開局50周年、ラジオ開局55周年の節目を迎え、愛知・岐阜・三重の東海3県をカバーする地元の放送局として、視聴者・聴取者の皆さんから愛され親しまれています。今回お訪ねしたのは、報道局報道部。mcAccess ℓ を導入し、TVニュース取材時の連絡用として活用されています。比較的落ち着いたウィークデーの午後、カメラデスクの内山康輔さんにお話を伺いました。

社屋外観。



この部屋で番組を制作し、ニュースを送ります。



User's Report

**災害時も確実に一斉連絡!
本社と取材クルーを
信頼&安心で結びます。**

**CBC 中部日本放送株式会社
報道局報道部 様**

所在地 / 愛知県名古屋市中区新栄1-2-8 TEL / 052-241-8111
mcAccess ℓ 導入時期 / 平成17年4月 契約台数 / 17台(うち管理移動局1台)

mcAccess ℓ 導入により通話の確実性が向上 IT化時代の報道現場に不可欠の通信システム

報道局では、日々、番組取材のために中継車・取材車が現地へと走ります。その際の連絡用として従来からVHF無線はありましたが、通話域が狭く、秘匿性の問題もあって十分活用できていなかったとか。日常便利な携帯電話も災害時には不安。そこで、災害時の連絡網の確保を目的に、デジタル化された mcAccess ℓ を導入しました。「広域通話ができて秘匿性も万全。一斉通信が可能で、メールより細かなニュアンスが伝わる」と内山さん。今では、取材クルー間の連絡はVHF無線、本社と取材クルーの通話は mcAccess ℓ と各特性を生かした使い分けをされています。



本社のコントロールセンター(報道デスク)。ここから mcAccess ℓ で指示を出します。

新潟県中越沖地震ではCBCの報道に一役 安全情報の一斉連絡で安心取材をサポート

2007年7月16日午前10時13分、新潟県中越沖地震が発生。「緊急地震速報」が感知し、第一報が入ると、直ちに中継車、取材クルー、ヘリコプターが陣容を整え、あわただしく現地に向けて出発しました。その際、電話回線が使えないなどのリスクを想定して、考えられる通信手段はすべて準備することにしました。東海移動無線センターにも、販売店の中部電子システム株式会社(CDS)を通じて全国通信ネットワークの追加依頼がありました。この時、CBC CDS センターの三者連携が大変スムーズに運び、全国通信ネットワークへの設定がすまやかに完了。本社から現地へ直接連絡できる体制がいち早く整いました。

この地震では幸い携帯電話がほぼ通じましたが、実践訓練を兼ね、あえて mcAccess ℓ を使うことに。「仮に携帯電話が使えても、トラブルに備えてもう



取材先に向けて出発する中継車。mcAccess ℓ をはじめとする無線設備や放送に必要な設備機器を搭載しています。

ひとつ確実な連絡手段があるのは安心です」と語る内山さん。

取材先では、自分たちの現場は把握できても、他の現場のことがわからず、全体像が見えないことがよくあります。この地震では、柏崎刈羽原発の屋外変圧器が出火する事故が発生しました。その際、本社で把握した情報を mcAccess ℓ で一斉通信。取材クルーに命を守る安全情報を即座にフィードバックし、全員が安心して取材を続けることができました。

より使いやすく信頼性の高い無線ネットワーク構築へ mcAccess ℓ の新たな可能性が広がります

事件としては、長久手町の籠城・発砲事件(2007年5月18日)が記憶に新しい。この時はマスコミや群集が殺到して携帯電話の基地局がパンク。携帯電話が通じないなか、mcAccess ℓ がおおいに活躍しました。「取材クルーが現場に張りつかざるを得ない状況では、スタッフは本社からの一斉連絡で事件の全容を把握することができます。本社でも現場の様子が逐次確認でき、他に傍受されることがなく安心です」と内山さん。

万一の災害や事故に備えて、CBCではあえて日頃からメインの連絡に mcAccess ℓ を使用。TBS系列の各放送局が行う合同地震訓練の際も“携帯電話が使えない”想定で、mcAccess ℓ を活用されています。

マスメディア、とりわけTVのニュース報道では、視聴者に対してより正確に、わかりやすく、タイムリーに情報提供をすることが第一です。そのためにも、平常時、緊急時を問わず、本社と取材クルーを結ぶ信頼性の高い通信システムを構築することがすべての基本となります。

これからもCBCの報道現場において、無線ネットワークを通じて人と人を繋ぎ、信頼と安心を結ぶ大切な業務の一翼を担い続けるなかで、当センターが果たす役割は大きい。そして mcAccess ℓ の可能性はますます広がっている、と言えるのではないのでしょうか。

正確・迅速を競うTV報道の現場で、
mcAccess ℓ が大活躍!

http://h.icbc.com **CBC**

POINT

mcAccess ℓ いろいろの効果

一斉通信で情報共有。災害の全貌を掌握
広いサービスエリア。遠距離通信も確実に
傍受されず安心! 情報をしっかりガード
感度良好! クリアに通話
操作簡単! 運転中も使えて便利



移動局(中継車)本社と mcAccess ℓ で通話しながら現場へ向かいます。



現場から電送されてきたVTRについて、mcAccess ℓ で通話しながら内容チェック、収録へ。

こんな意見がありました!

◆ユーザーさんの声◆
今後の展開として次のようなご要望をいただきました。

- 車載・可搬と利用しているが、機動性を高めるため、現状の可搬型は携帯型への切り替えを検討したい。
- 現在、販売店を通じて、携帯型 mcAccess ℓ デモ機2台を試用いただいています。機動性に優れ便利に使える、と好評です。
- ヘリとの連絡にも秘匿性の高い mcAccess ℓ を使いたい。法的規制を何とかしてほしい。
- 法的な問題をクリアする必要がありますので、関連省庁に規制緩和を働きかけていきます。

正確・迅速を競うTV報道の現場で、 mcAccess eが大活躍!

毎日放送
社屋玄関

静岡放送
日本平鉄塔

静岡放送社屋

東北放送社屋

CBC中部日本放送(株)報道局報道部様だけでなく、TBSをキー局とするJNNネットワークの中でも、mcAccess eが使われています。TBC東北放送様、SBS静岡放送様、MBS毎日放送様におけるmcAccess eの導入経緯や活用法についてお伺いしました。

POINT mcAccess e いろいろ効果

- **一斉通信で、効率的に情報共有**
一斉通信で同報通信することにより、情報が共有できます。
- **デジタルならではの高い秘話性**
声の形を数字に変換するデジタル方式を採用しているため、秘話性に優れています。
- **音質がクリア、操作性簡単**
雑音や混信がなく、音質がクリア。誰にでも操作が簡単。

ユーザ・レポート

平成15年の大地震を機に導入。
事件・災害発生時のみならず、
日常のスポーツ取材で大いに活躍。

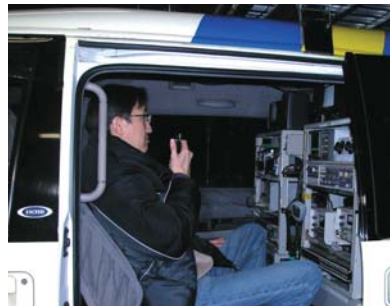
TBC 東北放送株式会社 報道制作局取材部 様

- 所在地/宮城県仙台市太白区八木山香澄町26-1
- TEL/022-229-1111(代表)
- mcAccess e 導入時期/平成16年9月
- 契約台数/12台(うち管理移動局2台)

TBCでは、平成16年9月にGPS機能付きmcAccess eを導入。前年5月に起きた宮城県内を震源とする震度6強の地震の際、携帯や有線などの電話が使えず、社のVHF無線も混信状態となったのです。現場に出動した記者やカメラマンと本社デスクとの間で連絡が取れなくなり、災害や大事件発生時における取材クルー独自の通信手段の必要性を痛感されたことが



取材部の「NV収録」というセクションで、GPS画面を見ながら、指示を出しているところ。



素材伝送のため、mcAccess eで本社と連絡を取ります。今後は、データ通信も活用したいとのこと。

導入のきっかけでした。

導入後は、支局や駐在といった伝送基地にもmcAccess eを配置し、車載・ポータブルの両方で使えるようにされています。大事件や災害発生時にも安定した通信が可能なおうえ、一斉通信で情報を共有することができるのが大きなメリット。緊急時には、怒鳴りあいのようなことが多いのですが、mcAccess eは音声クリアなので、そんな場合でも聞き取りやすいとのこと。

<http://www.tbc-sendai.co.jp>

東海地震発生時のために
mcAccess eを導入。
毎月の地震訓練にも活用中。

SBS 静岡放送株式会社 報道制作局情報センター・ 技術局技術センター 様

- 所在地/静岡市駿河区登呂3-1-1
- TEL/054-284-8900(総務局)
- mcAccess e 導入時期/平成19年4月
- 契約台数/13台(うち管理移動局1台)

近い将来、発生するといわれる東海地震に備え、SBSでは、局舎や送信施設などの耐震補強といったインフラ整備や、報道局員の教育、地震放送訓練を重ねてこ



mcAccess eを使用して、ニュースカーから本社へ連絡。

れました。その中で大きな課題となったのが、被災地へ向かう取材クルーと本社との情報伝達手段。携帯電話が使えなくなるうえ、社のVHF無線機も輻輳状態となるのが必至だからです。それを解決するため、複数の無線ネットワークの所有を検討され、広域で使えるmcAccess eの導入に至りました。その内訳は、管理移動局1台(本社)、中継車用3台、取材車用6台、県庁記者クラブ常設1台、技術系2台となっています。

緊急時に備えmcAccess eの取り扱いにも各自習熟しておく必要があるため、報道部と取材部が中心となって毎月実施している地震訓練にも活用されています。この訓練は、スタッフが手薄な状況下で地震発生という想定のもと、初動体制



SBSの「ニュースサブ」。カメラマンが撮影した映像は、このスタジオに送られます。

の確保に重点をおいて行われています。東海地震発生時には、SBSは全国・全世界に向けた被災状況の報道は当然のことながら、被災者である静岡県民に向けてライフラインなどの情報を伝えるという重大な使命を担います。mcAccess e導入により、必要な情報を正確・迅速に伝えることができることでしょ

<http://www.shizuokaonline.com>